

## 高野の家のこと

いわき市立中央台南小学校 3年 出村暁葵

夏休みになる前の週の日曜日に、お母さんが、  
「ひさびさに、高野に行ってみようか。」

と言ったので、わたしは、(高野ってどこだろう。)と思いました。お母さんとお姉ちゃんと妹とわたしの4人で出かけました。

家を出発してから20分くらいで、いわき市内ごうの高野町という所に着きました。ここは、わたしが生まれる前に住んでいた家なのだそうです。家のまわりは草だらけでしたが、家の中はけっこうきれいでした。まどの外には森が広がっていて、わたしの好きなカブトムシやクワガタムシがたくさんいそうな感じでした。遠くをながめると、わたしが今住んでいるいわき市中央台にあるいわき明星大学のたて物や海が見えました。

ふと下を見ると、家のななめ下の土手の所が大きくけずられています。わたしは、なんだかふしぎに思って、お母さんに聞くと、

「それは、ずいぶん前のてっぼう水のあとよ。」と教えてくれました。

大雨がふった時に、雨水や地下水がなにかにせきとめられて1ヶ所に集まり、一気にせきを切ってはげしいいきおいで流れおちてくる「てっぼう水」がここでおきたのだそうです。お母さんにくわしく話を聞くと、てっぼう水がおこる前は、ずっと雨がはげしくふっていたそうです。その時、急にドーンというすごい音がなりました。お母さんは、近くにかみなりが落ちたと思ったそうです。少ししてから、わたしの家に人がたずねてきて、

「道ろが土砂でうまって車が通れないので、なんとかしてくれないか。」

と言ってきて、はじめててっぼう水があったことがわかりました。わたしの家の下を通っている道は、水といっしょに流れてきた土砂でかんぜんうまってしまっていて、車が通れないばかりか、人が通るのもきけんな感じだったそうです。お母さんは、急いでけいさつと消ぼうと地元の農ぎょうにれんらくをしたり、仕事に行っていたお父さんに早く帰ってくるように電話をしたりしました。土砂でふさがれた道は、帰ってきたお父さんが、そっこうからあふれ出ていた水をり用してすべてとりのぞきました。次の日には、農ぎょうの人が来て、道ろをもと通りに直したそうです。山の上の方の木をたくさん切ったことが原いんらしいと、お母さんは言っていました。山に木がたくさんあると、ちゃんと根をはってちょっとぐらいの雨ではびくともしないけれど、山の木が急に切られてしまったので、こんなことがおきたのだそうです。

わたしの今住んでいる近くにも木がたくさんはえています。わたしは、木がはえているのは当たり前だと思っていました。けれど、いつも見ている木たちが、実はとても大切な役目をしていることがわかりました。木は、わたしたちを守ってくれていると思いました。